

『関東交通観光戦略2016』の概要

趣旨・目的

「関東交通プラン2005-2015」を引き継ぎ、新たな施策指針として「関東交通観光戦略2016」を策定。

本戦略の特色

- ①交通政策基本計画等に定められた諸施策から、関東の特性を踏まえて特に**重点的に取り組むべきもの**をピックアップ
- ②各施策について、**2020年までに実現する将来像**を設定し、その実現に向けた**中期戦略を立案**
- ③**他の行政機関との連携施策**を位置付けて、新たな展開を位置づけ
- ④上記①～③を踏まえて2016年度に進める具体施策を掲載

関東の特性

- (1) 激化する国際競争の中で日本経済を牽引、(2) 東京圏と東京圏外の二重構造、(3) 首都直下地震等の巨大災害の可能性

戦略の概要

～4つの主要施策～

1. **広域関東全体**で訪日外国人旅行者を受け入れるための環境整備

← このままでは2020年に東京の宿泊施設はパンク

【目標】外国人延べ宿泊者数を東京圏:東京圏外で3:1とする

■2020年4000万人の実現に向け、東京に一極集中している訪日外国人を**広域関東(Tokyo & Around Tokyo)**で受け入れるため、**広域観光周遊ルート**の設定準備、**滞在型コンテンツ**の充実、**Tokyo & around Tokyo**のブランド化等を推進

2. 超高齢社会に対応した**地域公共交通の再編**

← 2020年には、北関東で75歳以上の高齢者が約100万人増加

【目標】北関東3県の地域公共交通網形成計画104
主要な観光地の公共交通整備率100%

■高齢者等が利用しやすい公共交通への再編、交流人口を呼び込むための公共交通の整備を推進するため、「**がんばる地域応援プロジェクト**」の参加自治体を拡大し、計画策定を支援

3. 労働力不足対応、国際競争力強化のための**物流効率化・高度化**

← 労働力不足の中、トラック輸送では2時間弱の手待ち時間が発生

【目標】1人1時間あたりの付加価値額2割向上、
北米基幹航路のデイリー寄港週30便維持・拡大

■2020年までに労働生産性を2割程度向上させるため、**圏央道等沿線**において立地が進む物流施設の高度化を推進
■道路や鉄道ネットワークを活用して、大深度バースが整備された**京浜港の広域集荷体制**を整備し、その国際競争力を強化

4. **防災減災対策と事故防止対策**の推進による安全安心の確保

← 軽井沢スキーバス事故の発生、首都直下地震の可能性

■軽井沢ツアーバス事故等を踏まえた事故防止対策を推進
■首都直下地震等への対策として、運輸局が重要な役割を果たす**帰宅困難者対策**及び**緊急支援物資輸送**の体制整備を推進

点検と見直し

毎年度末に、PDCAサイクルに基づき、進捗状況の点検と必要な見直しを行い、中期戦略と次年度の施策をブラッシュアップ